



かほく防災記者リポート



宮城・松島で町探検
小学生をサポート

危険箇所調べマップに

震災の教訓や災害への備えを学んで発信するかほく防災記者の中学生3人が2日、河北新報社が宮城県松島町児童館で開いた防災ワークショップ「むすび塾」に参加した。日本損害保険協会(損保協会、東京)の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」の運営をサポート。町内の小学1〜5年生4人と一緒に地域を歩いて危険箇所を調べ、防災マップを作った。



かほく防災記者も児童と一緒に地域を探検し、危険箇所などを調べた=2日、宮城県松島町

2日は町内で町総合防災訓練が行われた。訓練を伝える防災無線が流れる中、児童たちは磯崎漁港の沖合に浮かぶ人工島「磯島」で訓練を見学するA班、津波避難ビルのJA仙台松島支店を通るB班、観光客が多い松島海岸を巡るC班に分かれて地域を探検した。

防災記者は児童館、損保協会のスタッフ、児童館の学童保育経験者ら他の中高生、大学生とともに探検に同行した。児童が見つけたブロック塀、看板、崖など災害発生時に危ないものや場所を手持ちの地図に記入。防災倉庫、避難先の案内板、公衆電話、消火栓など災害時に役に立つものも書き加えた。

児童館に戻った後、危険箇所の位置などを児童にアドバイスしながら防災マップを完成させた。児童の保護者による炊き出しもあり、児童と一緒に芋煮を味わった。

災害への備え伝えたい

探検で子どもたちと一緒に地域を歩き、危険箇所を知っておくことだけでなく、災害時にどんな行動をとるといいのか、前もって考えておくことが大事だと思った。参加していない小学4年の弟に、探検で見つけた危険箇所や落ち着いて行動することを伝えたい。



(松島町松島中3年 飯嶋燦太さん 14歳)

見守る立場 大変さ実感

小学生の頃は見守られる立場だったが、今回は初めて子どもたちを見守る立場での活動になった。何か行動するとき子どもたちをまとめなくてはいいけない児童館の先生たちの大変さがよく分かった。自分としても危険箇所、避難先の確認ができてためになった。



(松島町松島中3年 鈴木成瑠さん 15歳)

段差やひび割れ対策を

今まで地域を防災の視点で見えて歩いたことは無かった。来たことがある場所でも、道路の段差、



(松島町松島中3年 田瀬そよかさん 15歳)

スマホでも、タブレットでも、パソコンでも、いつでもどこでも

使わないのはもったいない!

新聞購読者限定

河北新報 デジタル紙面

登録受付中!!

新聞では白黒の写真もカラーで表示 ※一部例外あり

拡大して文字くつきり読みやすい!

新聞紙面と同じレイアウト!

通勤中や旅先などいつでもどこでも読める!

過去1週間分の紙面が読める!

突然の災害時にも避難先で読める!

河北新報をご購読いただいている方は登録料・使用料 **無料!** (法人は対象外)

会員登録はこちらから

【ご注意】
 ・新聞1購読につき1IDお申込みいただけます(法人は対象外)
 ・月ご購読料をお支払いいただいている読者の方への無料サービスです。
 ・「河北新報デジタル紙面」は「河北新報オンライン(会員制ニュースサイト)」とは別のサービスです。
 ・ご登録の住所で新聞購読契約が確認できない場合はサービスを解除いたします。

http://np.kahoku.co.jp/

■問い合わせ先 [河北新報IDカスタマーセンター]
 022-355-8825(平日10:00~17:00)
 E-mail: dp-info@po.kahoku.co.jp